

第89回一般質問一覧表

4. 6. 23

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
1	高瀬 洋	沖田井堰等の工事に関連して	(1)受益者はどの程度いるのか。 現在、農業をされている市民は減っていると思われるが、その数を確認したい。	部長
			(2)どのような工事なのか。 具体的にどのような工事なのか確認する。また、工事完了後の水防上のメリットについても問う。	
			(3)ビオトープ等への配慮がなされるのか 工事現場付近は多くの魚の生息地になっている。	
			(4)これまでの樋門や水門の管理について 今後の水門の管理を考える前にこれまでの管理について確認する。	
			(5)今後の水門の管理について 今後はポンプによる取水となることや、水路の目的も変化してきているので、今後の管理について聞く。	
			(6)水路の管理について 泥の堆積や水もの発生などを水路近隣の世帯で心配する声があるが、対策をどう考えているのか。	
		(7)管理組合の組織について 沖田井堰の管理組合には、市の職員が2名入っている。これは管理組合と市が協力しあうということでもとても良いことであると思う。今後とも市の職員2名が管理組合の理事となってもらいたい、市長の考えを聞く。	市長	
		童子山公園の管理等に関して	(1)工事の計画について 約5年前に西脇区の要望等を反映して市では「童子山公園整備基本計画案」をまとめたが、その後どうなっているのか。	部長
			(2)遊び場としての機能 多くの保護者からは遊び場としての機能を高めて欲しいという希望がある。	

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			<p>(3)公園の適切な維持管理のための役割分担について 西脇区では年5回、公園の美化活動を行っているが出来ることには限界があり、市、住民サービス公社、西脇区の連携が重要である。また、専属者も必要と思うがどうか。</p>	
			<p>(4)童子山公園の管理について 童子山公園はかつての県立西脇高校のスペース、市庁舎であったスペース、配水池であった山の部分など市民にとって思い出深い公園である。市民もこの公園の維持に努力していますが、市と市民の協働も大切である。公園の維持管理やリニューアルについて市長の思いを聞く。</p>	市長
2	村岡栄紀	空き家の積極的流通、活用で西脇を元気に。	<p>(1)現在、特定空き家等候補となっている物件は、「建物の基準」及び「放置すれば近隣住民に重大な危険を及ぼす」といった点において「特定空き家の基準」を満たしていると考えていいのか。</p> <p>(2)当時の総務産業常任委員会として、建築物の状態が特定空き家の基準を満たせば、速やかに特定空き家に認定すべきであるという提言を行った。これに対する市の現在の見解は。</p> <p>(3)特定空き家候補を含む、危険空き家の中で、固定資産税の住宅特例を受けている空き家の数は。</p> <p>(4)長年解決できずにいた問題が「特定空き家」認定を契機に確実に前進すると予測して、認定を積極的に推し進めていくべきだと考えるが。</p> <p>(5)斎藤知事が掲げている条例案では県内に約36万戸ある空き家のうち、利用できるのに流通していない約11万戸を対象としているということであるが、本市の空き家等との整合性、展望等は。</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			<p>(6)空き家問題と同様に、耕作放棄地等を防ぐには、農地流通を促進させて将来の担い手の裾野を広げていくべきだと考えるとともに、市街化調整区域等の空き家も積極的に流通促進すべきと考えるが。また、母屋と農地のセット売買の現状や農地流通促進の展望は。</p>	
			<p>(7)50～100点未満の適正管理をしないと将来特定空き家になる可能性のある空き家の現状は。また、所有者に対してどのような問題解決への働きかけを行っているのか。</p>	
			<p>(8)0～50点未満の「修理すれば十分住める空き家」の所有者に対して、どのような問題解決への働きかけを行っているのか。</p>	
			<p>(9)修理すれば十分に住むことのできるすべての空き家に対し、空き家バンク等への登録などを積極的に推奨し、また、傷み等が激しく登録が難しいとされる空き家に対しても、物件情報において重要事項説明を徹底した上で、市場への積極的流通活用を推進することが必要であると考えが。</p>	
			<p>(10)不動産業者は3%+6万円の手数料のルールに従い、できるだけ高く売りたいと考えるが、空き家売買のポイントは「安さ」であり、「安ければ売れる」という市場においては、業界の常識は厳しいのではないかと考えるが。</p>	
			<p>(11)物件情報作成を不動産業者任せにせず、売主にも参加してもらい、物件概要よりも「売ることになった理由」や「これまでの経緯」を詳しく書いてもらうことを促し、売主の「ストーリー」を重視することを提案する。</p>	

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			<p>(12) 売買に関しても不動産業者に一任するのではなく、情報を売主も市職員も共有し、売主も契約までの交渉等に参加できるといった制度の見直しを行い、売主、不動産業者、市職員が三位一体となって空き家流通活用の仕組みの構築や促進に取り組むことを提案する。</p> <p>(13) 昨年12月開設以来、オンライン空き家相談窓口はどのくらい認知され、どういった内容の相談が寄せられているのか。また、宅地建物取引業協会北播磨支部との意見交換会において、どういった話し合いが行われたのか。</p> <p>(14) オンライン空き家相談窓口を幅広くPRするとともに、窓口のひとつの核として空き家の流通促進にも重点を置くべきであると考えている。また、宅地建物取引業協会北播磨支部等の民間団体との業務提携や連携を積極的に行い、しっかりとした協力体制を構築すべきと考えるが。</p> <p>(15) 今後、空き家の積極的流通、活用が自治体の「まちづくり」の明暗を左右すると言っても過言ではないと考える。そういった意味において、市として空き家流通に本気で取り組むことが、本市の活性化につながると考えるが、市長の見解は。</p>	
3	東野敏弘	JR加古川線(旧谷川線・西脇市～谷川)の存続を求めて	<p>(1) JR加古川線の果たしている役割、位置づけについて聞く。 4月12日付神戸新聞で、「県内JR4路線6区間赤字」と大きな見出しで報道され、西脇市～谷川までの旧谷川線は廃線になるのではと沿線住民の方々は心配されている。旧谷川線の実践している役割、西脇市における位置づけについて市行政の考えを問う。</p>	市長 部長

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			<p>(2)JR加古川線の電化に向けた取り組み実績を聞く。 JR加古川線は、沿線住民の長年の念願であった全線電化を平成16年12月に完了した。沿線自治体も負担を行い、住民の募金活動も行われた。沿線自治体や議会、商工会等で構成する電化促進期成同盟会の役割が大きかったと考える。</p> <p>(3)兵庫県が提唱しているJR西日本の赤字路線の活性化を議論する「JRローカル線維持・利用促進検討協議会(仮称)」について聞く。 斎藤知事は、赤字ローカル路線を維持する必要がある、利用促進を議論する協議会を立ち上げ、方向性を出したいと話されている。「JRローカル線維持・利用促進検討協議会(仮称)」の動きと、西脇市の立ち位置や果たすべき役割を聞く。</p> <p>(4)JR加古川線の活性化(乗客増)に向けた具体的な取組について聞く。 JR加古川線の活性化に向け、乗客増を図る取り組みが求められる。自転車の持ち込みができる電車や歌声列車の運行や谷川駅での福知山線との連絡の改善、通学時間帯での増便、加古川駅から谷川駅までの直通電車の運行等について聞く。また、駅舎や駐輪場の整備について聞く。</p> <p>(5)JR加古川線(旧谷川線)の存続、活性化に向けた市長の考えを問う。 JR加古川線(旧谷川線)の存続、活性化に向け、沿線自治体との連携が重要になってくる。特に、旧谷川線に関しては、丹波市との連携が重要である。沿線自治体との連携やJR西日本への働きかけ等、片山市長のリダーシップに期待する。</p>	
4	杉本佳隆	観光交流促進による地域の活性化に向けて	<p>(1)旅行者への助成(観光交流活動創出支援事業)について</p> <p>①コロナ前とコロナ過における西脇市の観光客の推移</p> <p>②事業の目的と実績・成果</p> <p>③事業メニュー考案の見地、コロナの影響を踏まえたメニューの創設</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			④国・県の助成事業との併用・課題 ⑤旅行会社へのセールス・情報発信	
			(2)旅行助成以外の観光交流の促進について ①今後の取組方針 ②誘客イベントの企画・開催	
			(3)ウイズコロナ、アフターコロナを踏まえた観光交流に必要な視点と今後の展開方針	市長
5	藤原哲也	ヤングケアラーの実態調査と支援に向けて	(1)ヤングケアラー支援への取組は。 (2)ヤングケアラーの市政として小学校6年生・中学生の実態調査に向けての取組は。 (3)ヤングケアラー支援に対し関係機関との連携について。	部長
			(4)本市のヤングケアラーに対する支援と意見を聞く。	市長
		北はりま旬菜館を中心とした「エシカル消費」の推進	(1)「北はりま旬菜館」の近年の経営状況について (2)来客数を増やすためのイベント開催について (3)市場(周辺店舗)の改修による新たな顧客の獲得及び市場との連携による賑わいについて (4)「北はりま旬菜館」を中心としたエシカル消費の推進について。「西脇エシカル消費の日」を設定してはどうか。	部長
			(5)最後に、SDGsのゴール12に関する現状と進捗状況、今後の取組方針を問う。	市長
6	坂部武美	「市民憲章」・「市の木、市の花」の普及推進について	(1)「西脇市民憲章」・「市の木、市の花」の普及推進をどのように考えているのか ①西脇市民憲章の普及啓発等の進捗状況と今後の普及啓発推進の考えは ②市の木・サクラ、市の花・シバザクラの普及推進の考えは	市長
		スポーツ庁の「運動部活動の地域移行」について	(1)スポーツ庁の「運動部活動の地域移行」をどのように進めていくのか ①現在の外部指導者の状況は ②運動部活動の地域移行への課題は ③運動部活動の地域移行を進めるための方策は	教育長

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
7	森脇久夫	高校生の通学路安全確保について	(1)国道 175号西脇北バイパスの早期部分開通について 令和2年3月に西脇北バイパスの寺内ランプ・大伏ランプ間が開通したが、部分開通のため加古川沿いとなる畑瀬ー蒲江北間の自動車通行量が大幅に減少していないように見え、高校生が登校時国道の右側を走っていて、決して安全とはいえない状況にある。現行の部分開通区間を(仮称)津万ランプまで延伸することで現行ルートを走る自動車を減少させ、通学生の安全確保を図ることができないか。	技監
			(2)県道24号(多可・北条線)明楽寺ー加西市河内間の通学路について 明楽寺から加西市河内に至る県道の西脇市部分の拡幅工事が終了したが、明楽寺交差点から道路西側に歩道のある区間の路側帯幅が狭くなっている。加西方面に下校する自転車通学生が危険な状態にあり、安全確保を図る対応が必要。	
8	村井正信	耕作放棄地の解消に向けて	(1)農業委員会の必須業務として、担い手への農地利用の促進・集約化の取組があるが、この5年間で担い手及び集約化はどの程度進んでいるのか。	市長
			(2)耕作放棄地は8町歩～10町歩程度で推移している。2015年農林業センサス・兵庫県結果によると、西脇市の耕作放棄地は約30町となっている。どちらが現状に近いのか。	
			(3)遊休農地、耕作放棄地を減少させていく対策として実行している事業はどのようなものがあるのか。	
			(4)西脇農業ビジョンのなかで各農会や集落でやってみてもよい取組は「貸し農園・市民農園」が挙げられているが、現状の取組はどうなっているのか。	
			(5)「人・農地プラン」では、田んぼの畦畔の草刈りについての対策はあるのか。	

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			<p>(6)対策</p> <p>①市が草刈機を購入し、耕作者に貸与する仕組みの創設</p> <p>②センチピードグラス耐寒性改良品種(和名：ムカデ芝)の種子の添付された植生シートを利用</p> <p>③田んぼの畦畔は水路や農道と同じように「集落で管理する施設(共有の財)」と考え、個人の田んぼや担い手に預けた田んぼは多面的機能支払の「農地維持支払」を使って畦畔の草刈りに日当を出す制度の創設を求める。</p>	
		<p>公営の合葬式墓所の整備について</p>	<p>私が合葬式墓所の創設を取り上げてから、市民からは是非西脇市に作ってほしいとの声を聞くことが多くなった。子どもはいるが遠い所にいるので、今後お墓のことで負担をかけたくないと言われる人や、子どもがいないのでお墓を作っても世話をしてくれる人がいないなど、深刻な訴えを聞いた。また、年金収入だけで生活しているので、出来るだけ安価な費用で入れる合葬式墓所を望む声だった。</p> <p>(1)県下でも合葬式墓所を開設している自治体が増えているが、把握している自治体名を聞く。</p> <p>(2)開設している自治体では、合葬式墓所の必要性をどのようにとらえているか、把握しているのか。</p> <p>(3)令和3年度も墓地の使用数よりも返還数が多くなっているが、この状況は今後も続くと思われるか。また、その理由は何であるか。また、使用料収入等が減っていくと運営に影響がでるのではないか。</p> <p>(4)令和2年1月に西脇市として高松霊園利用者に「お墓に関するアンケート調査」を実施している。現在お墓を持っている人でも合葬式墓所を望む人が17.8%いる。市民全体の意見を聞くためのアンケートの実施を求める。</p>	<p>市長</p>

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
9	浅田康子	健幸都市の実現に向けて～歩くことから～	(1)ウォーキングコースの設定について オリナスの外周歩道は人気であるが自宅から遠いなどの理由で誰もが利用できない、市として他に市民にウォーキングに適したコースを設定し推奨しているのか	部長
			(2)反射グッズの配布について 歩くことを推奨している健幸運動教室Ni-Coや健幸ポイント事業において反射グッズ配布の考えは	
			(3)オリナス1階に血圧計の設置について 多くの方が訪れるオリナス1階ラウンジに、旧市役所と同様に血圧計を設置できないのか	
			(4)「おりひめ体操」の現状と効果について 「おりひめ体操」が始まって9年が経過している。現状と効果を問う	
			(5)「おりひめ体操」の種類について 「おりひめ体操」は現在3種類あると思う、こういった意図で3種類があり、どのように使い分けするのか	
			(6)「おりひめ体操第3」の普及について 「おりひめ体操第3」は制作されてからまだ日が浅いことから、市民への普及はこれからという印象である、今後どのように周知されるのか	
			(7)「コグニサイズ」の普及について 運動と同時に認知予防を目的とした取り組みが大切である、「コグニサイズ」の普及についての考えを問う	
			(8)「健幸都市・にしわき」で目指す社会について 健康寿命の延伸に向け健幸教室Ni-Coなどのほか、市長は介護予防の観点からどのような取組をされるのか、その結果どのような社会を目指されるのかを問う	市長

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
10	高瀬弘行	小中学校の統廃合について	<p>(1)学習環境規模適正化検討会議への諮問内容について</p> <p>①「学習活動や学校行事等の学校生活及び学校運営にも影響が生じているところです。」とあるが、具体的には、どのような内容か？また、そのような声は、どこから届いたのか？</p> <p>②「本市の教育振興基本計画に沿った教育施策を遂行していくに当たって、将来にわたり適正な学習環境規模を維持し、より良い教育環境を確保することが必要であると考えております。」とあり、重点目標 第1【施策の柱】1. 「確かな学力の育成」とあるが、検討会議では、学力についてはどのような検討がされたのか？特に低い学力集団をどのように改善されようとしているのか？また、学力テストなどから読み取れる学校規模と学力の相関性などは？</p> <p>③また、教育振興基本計画の重点目標 第1 【施策の柱】2. 「豊かな心の育成」とあるが、いじめや問題行動、不登校などの課題克服についてどのような議論がされたのか？（各学校のいじめと問題行動の資料を求める）</p> <p>(2)「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」に関して</p> <p>①第1回検討委員会では、「手引」を参考資料とし、適正規模として「1学年2学級以上」をに向けて様々な検討が行われているが、手引が示す標準数を超える大規模校の扱いは、どのような議論がなされたのか？</p> <p>②同ガイドラインでは、標準数以下であっても、一方的に統廃合するのではなく「特別の事情があるときは、地域の実情を配慮すること。」とあるが、地域の実情とは具体的には？</p>	答弁部長

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁	
			<p>(3)各種都市計画と適正配置との関係性について 公共施設等総合管理計画、小中学校教育施設長寿命化計画、立地適正化計画などにより、適正配置の決定にあたってどのような制限を受けるのか？</p>	部長	
			<p>(4)各地区で実施された2回の説明会について 各地区ごとの集約結果と参加人数について、どのようにとらえられているのか？</p>		
			<p>(5)答申後の取組計画について 答申を受けてから、議会上程、計画実行などの今後の予定は？</p>		
			<p>(6)現状と統廃合後の教諭数について（義務標準法算定モデルによる比較） 上記算定により算出される8校における各小学校の教諭数と答申案にある4校における各小学校の教諭数について（令和4年4月1日現在の児童数による）</p>		
			<p>(7)「秋田県方式」と言われる学力向上の取組について？ 市長がH25年の所信表明の「教育の復活」の中で「全国一の秋田県に追いつき追い越すことを目標」などと表明されているが、秋田県方式の特徴は？</p>		
			<p>(8)上記の質問を踏まえた総括的な質問 ①「手引」については、今後の学校における「適正規模・配置等」の在り方に関して、メリット、デメリットなどを明確にし、その対応方法を例示したものである、捉えてよいのか？</p>		教育長
			<p>②複式学級、単学級は、学校教育全般において、劣っているというエビデンスはあるのか？</p>		
			<p>③少人数教育について、どう考えるのか</p>		
			<p>④同一校区における大きな規模の学校から小さな規模へ通学できる制度についてどう考えるか？また、現在の校区外通学の条件は？</p>		

順位	氏名	大項目	小項目(要旨)	答弁
			⑤検討会議では、社会的課題となっているいじめ、問題行動、不登校などについて、どのような議論がなされたのか？	
			⑥まとめ	
11	藤原桂造	小規模特認校としての双葉小学校の必要性について	(1)小規模特認校の設置の趣旨を問う。	部長
			(2)複式学級には問題があるのか？	
			(3)特認校の魅力をもっとPRして家族共々移住してもらおうことを推進すべきと考える。市はどのように考えているのか	
			(4)市長は就任当時から、教育の復活をめざし全国一番の秋田県に追いつき追い越すことを目標にされている。 西脇市の子どもたちの学力を上げるには小規模校が重要と考えるが、教育長の考えを聞く。	教育長